

第 2 回 大阪府河川周辺地域の環境保全等審議会
議事要旨

開催日時	平成 25 年 4 月 22 日 (月) 15:00~17:00
開催場所	大阪府庁 本館 2 階 第 3 委員会室
出席者	池委員、久留飛委員、栃本委員、長田委員、原田委員、道奥委員、養父委員、山崎委員 計 8 名 (欠席：無し)
概要	<p>要 :【以下、○委員 ●事務局】</p> <p>安威川ダムの工事等における環境保全対策について、平成 24 年度調査結果を報告すると同時に、各工事における環境保全対策の説明を行い、意見を求めた。</p> <p>【資料 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1 回大阪府河川周辺地域の環境保全等審議会の議事要旨について了承を得た。 ・ 資料 1 についての委員の主な発言は以下のとおり <ul style="list-style-type: none"> ○フラッシュ放流の最大流量として 30m³/s ありきが前提条件になっているが、もう少し工夫する余地はないのか。 ●河川施設、現状の安威川の利用の観点から、低水路内の土砂等を除去した上での流量として最大 30m³/s という数字を出している。 ○30m³/s を 1 つの目安に、運用によってこれにプラスできるような工夫をぜひお願いしたい。 <p>【資料 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料 2 についての委員の主な発言は以下のとおり <ul style="list-style-type: none"> ○事前レクチャーのときに出たご意見を整理して、審議会の当日に議論するのが効率的と思われる。 ○出水時の S S については、負荷量と流量との関係という整理が一般的であり、L-Q 曲線等で流量と負荷量の関係がわかればよい。リンについても同時に測定しているのか？ ●リンについては測定しているため、L-Q の関係を整理する。 ○総雨量が同じでも時間雨量の激しさによって採石場からの S S が大量に川に流れ込む等、S S の差が非常に大きいと思われるので、色々なデータが必要かと思われる。 ●既存データより出水の強いとき、弱いときを含めて整理する。 ○生物調査は、事前調査ということであるが、工事が終わった後の確認はするのか。 ●現在、工事が継続中の場所は難しいが、工事が終了したところについては今後評価が必要と考えている。 ○S S が非常に大きくなっている部分の原因を突きとめながら、その対策を進めることが重要。 ●複数の調査地点で調査しているため、原因の類推、想定を視野に入れて取りまとめていく。 ○リンについては事前にダム貯水池の富栄養化でシミュレーションしているが、今回、出水で大分データが積み重なってきて、実際出水時にどれぐらいリン負荷があるのかということがある程度情報として出てきたので、シミュレーション時の設定条件の確認が必要ではないか？常時より出水時のリン負荷がほとんどであり、出水時のリンの負荷量というのが非常に大きなキーポイントになると思われる。 ○オオタカ調査については、調査日を記入していただきたい。また、オオタカの食性調査をす

る必要がある。

- ビオトープの管理に対して具体的なスケジュールを示してほしい。
- ビオトープについては、ため池を作るというだけでなく、生き物の生息域の大きさが面積比でどう変わっていくか、それだけでほんとうに補償になるのかどうかを考えながら、普通種と言われているものも当然生態系の中の一部なので、しっかりと変化を予測してほしい。
- 富栄養化は必ず起こると考えた上で、将来想定をどのような状態で良しとするのかを考える必要がある。

【資料3】

・資料3についての委員の主な発言は以下のとおり

- ファーストフラッシュを処理する集水桝は標準断面図でいうと、どの辺に入ってくるのか？また、道路排水はどこに流入するのか？
 - 安威川側へ落ちる道路排水を全て集水桝へ取り込んで、希釈した後に川に放流する。
- この集水桝ではどれぐらいの確率降雨を受けられるのかわからない。
- その設計を現在行っているが、少雨のファーストフラッシュは取り込める。それ以上の雨で取り込めなかった部分は、そのまま流す。
- 普段からファーストフラッシュにしないように、何日かおきぐらいに清掃をして、逆に受けやすい流量でこの集水桝に流しておけば、雨が降ったときでも、SSや油とかの負荷は抑えられた状態になるので、運用方法は考えてほしい。
- 付替大岩川の3面張りについては、生き物が隠れる、逃げ込める場所等々の工夫をぜひお願いしたい。
- 付替道路等の沈殿処理については、小さい沈殿池をつくるのではなく、下全面沈殿池みたいな形で、実質効果のあるようなことを考えていただきたい。
- 側溝や河床構造を多様にする工夫については、変更できない段階になった後に説明を受けるのではなく、事前に、まだ変更できる段階で説明してほしい。
 - 事前に意見をいただいて、途中でもフィードバックしながらやらせていただきたい。
- 付替大岩川のカゴマットについては、土砂が堆積する方向なのか、それとも堆積しない方向どちらを目的とするものなのか。
 - 特にカゴマットの上部分に植生を回復させたい。水生昆虫については、カゴマットの下部分、あるいは淵部分に石を配置し、すみかを確保したいと考えている。
- 色々なサイズのパイプやU字溝等をカゴマットに入れるか、あるいは、U字溝を置いて、上からネットで押さえればかなりの空間は確保できるので、そういう工夫をしてほしい。
- オオタカの慣れについては、転流工の明かり部で発破をかけるときは音がすると思うが、だんだん中に入ってくると音は出ていかないと思う。オオタカは大体7月ぐらいに巣立ち、8、9、10月には比較的営巣場所への執着がないので、そのころに明かり部のところで発破があって、だんだん中へ入っていくということであれば問題はない。
- 傍聴者の方からご意見で、できるだけ一般の方に公開ができる部分については公開するようお願いしたい。

以上